

第9回 第3期中海自然再生協議会議事録

日時 平成25年1月26日(土) 14:45~16:00

場所 島根県職員会館(県庁内)多目的ホール

協議会に先立って、13:00~14:30には、同所にて協議会主催の公開講演会「流砂系の変化と生態系管理ーレジームシフトを見据えてー」(講師:北海道大学大学院農学研究科教授、中村太士氏)が行われた。その後、熊谷協議会会長代理の司会のもとで、以下の議事が行われた。

議事

1) 4つの実施計画(①アマモ場の保全・再生事業、②海藻類の回収および利用事業、③砂浜の保全・再生事業、④浚渫窪地の環境修復事業)の進捗状況報告と今後の各事業の進め方について

①アマモ場の保全・再生事業 奥森隆夫氏と國井秀伸氏からアマモシートの設置などを進めたこと、アカエイによる食害と食材としての利用などについての報告がなされた。

②海藻類の回収および利用事業 渡部敏樹氏から島根・鳥取両県の共同事業として実施されている藻刈り事業も含めて報告がなされた。海藻を回収する際の問題とともに、回収された海藻をどのように使うかの問題、販売価格の問題などが指摘された。回収後の環境の変化などについては調査方法を含めて検討中との報告があった。

③砂浜の保全・再生事業 田守利彦氏から再生事業を具体的に進める前段階として、米子湾周辺の候補となりうる場所についての選定、必要となる土砂資源の確保などについての見学・検討会を実施したこと、今年度はさまざまな意見を出し、集約していく段階であることが報告された。

④浚渫窪地の環境修復事業 齊藤直氏から資料をもとに事業の進捗状況と今後の予定が報告された。桑原智之氏からは細井沖窪地では石炭灰造粒物を厚さ50cmで全面覆砂する大規模実証試験、錦海沖窪地では同質人工石による覆砂試験を実施したこと、事前および事後のモニタリング調査が実施中であることが報告された。モニタリングについては、結果を視覚的に訴えるなど、わかりやすい説明方法を工夫してほしい、覆砂の方法について、さらに検討を加えてほしいなどの要望が出され、今後検討していくこととした。

2) アドバイザー会議の設立と今後の協議会の進め方について
(報告で扱うこととした。)

報告

國井事務局長から以下の報告がなされた。協議会はおおよそ 3 ヶ月間隔で開催され、今年度は今回が 4 回目の協議会となったこと。事業の実施に伴い、4 つの実施事業のモニタリングが重要になることから、アドバイザー会議とは別のモニタリングに関する第三者的な組織の必要性について事務局並びにアドバイザー会議で検討を行ったことが報告された。これに関して協議会参加者からはモニタリングはアドバイザー会議で検討してもらうのがよいとの発言があり、今後、アドバイザー会議としてモニタリング関連の検討を行うことになった。また、中海自然再生協議会の規約は平成 19 年 6 月、同運営細則は平成 19 年 8 月および平成 20 年 11 月に一部改正されたままで、実状にあっていない部分が多く、次期の新しい協議会において改正することについての提案がなされた。さらに、第 4 期の協議会は 4 つの実施事業については、進行し、成果が出てくることになるので、引き続き、公募委員としての応募など、積極的な参加をお願いしたいとの発言があった。

第 3 期中海自然再生協議会のまとめ

最後に、熊谷会長代理から、この間、自然再生の運動が広がりをもってきたこと、この地域の自然再生について問題を提起することができるようになってきたこと、それと同時に責任も生じていることを踏まえて、今後の協議会を進めて行こうとの挨拶があり、第 3 期の中海自然再生協議会を終了した。

(以上)